



オカムラ食品工業

2026年6月期 第1四半期

決算補足説明資料

2025年11月14日

株式会社オカムラ食品工業（2938）



- I. 2026年6月期 第1四半期実績
- II. 「中期経営目標2030」の進捗状況
- III. 2026年6月期 通期計画
- IV. 参考資料

I . 2026年6月期 第1四半期実績



- Q1実績サマリー
- 成長のためのKPI
- 連結業績サマリー
- セグメント情報サマリー
- セグメント別売上高増減
- セグメント別営業利益増減
- 要因別セグメント利益増減（養殖事業）
- 要因別セグメント利益増減（国内加工事業）
- 要因別セグメント利益増減（海外加工事業）
- 要因別セグメント利益増減（海外卸売事業）
- 貸借対照表 増減サマリー

Q1実績サマリー

成長のためのKPI

国内養殖量

2026年水揚げ計画4,300トン（前年比824トン増）

- 現在は、26年4月～7月の水揚げに向けて養殖中。
現時点において特段の異常はなし。

海外卸売事業売上高

Q1売上**31.7億円**（予算進捗率24.5%）

- 通期売上計画は129億円。
現時点においては、概ね計画通り。

Q1業績

連結売上高

前年同期比**＋2.5億円**

- ・ 連結売上高は前年同期比103.2%の84.5億円
- ・ 海外加工事業において販売状況が低調に推移し売上高が減少したが、それ以外の各事業の売上は概ね順調に推移した

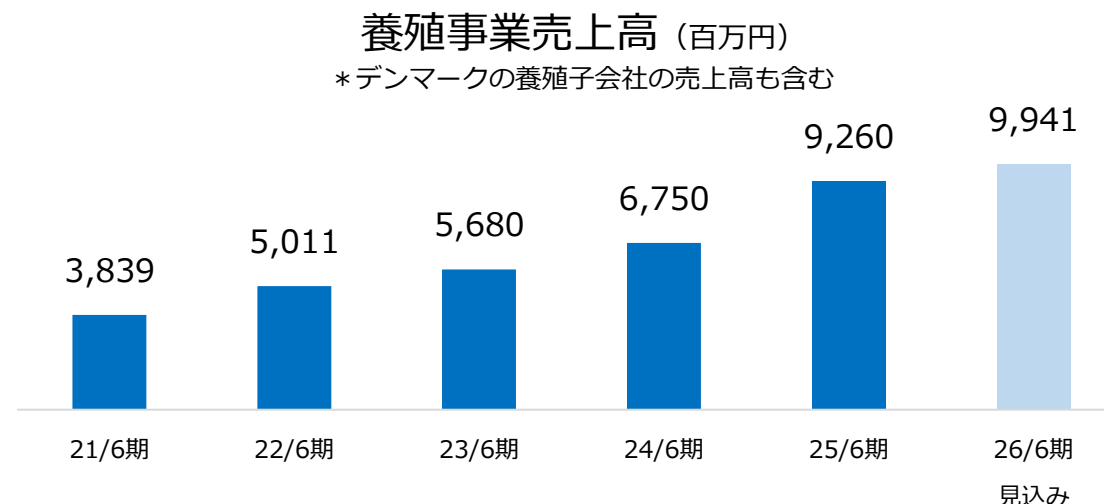
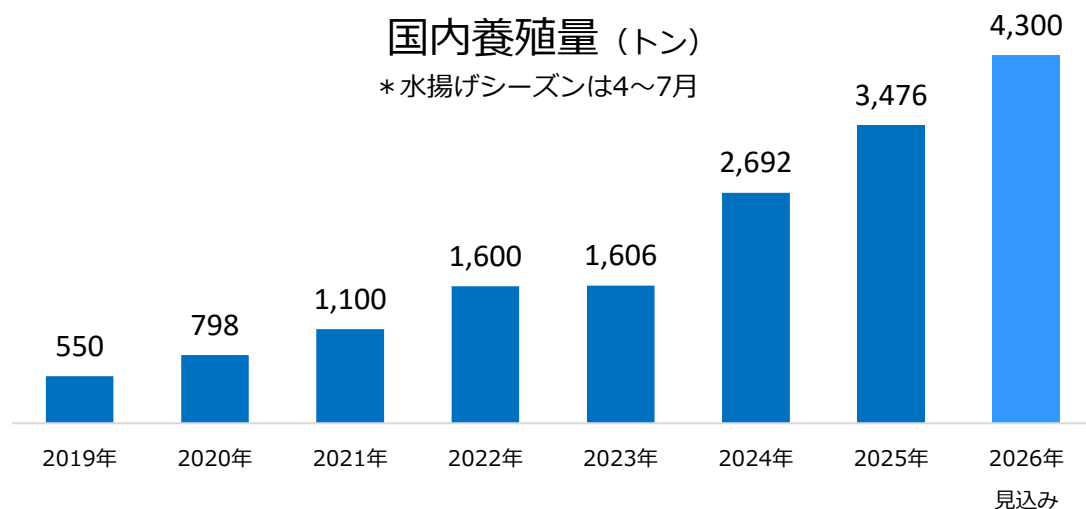
連結営業利益

前年同期比**△0.6億円**

- ・ 売上増加に伴う営業利益増加も、事業拡大に向けた人員増による人件費の増加と、製品在庫増加に伴う保管料増加の影響を受け、前年同期比94.6%の11億円

成長のためのKPI (1) 国内養殖量の拡大

当社グループの成長ドライバの一つは国内養殖量の拡大。2026年シーズン（2026年4～7月水揚げ）の国内養殖量は4,300トン（2025年シーズン比8百トン増）を計画。増産要因の施策は概ね予定通り進捗中。



中間養殖キャパシティの主な増加要因

- 漁業協同組合との協働による中間魚育成
- 養殖技術の向上による養殖効率の向上



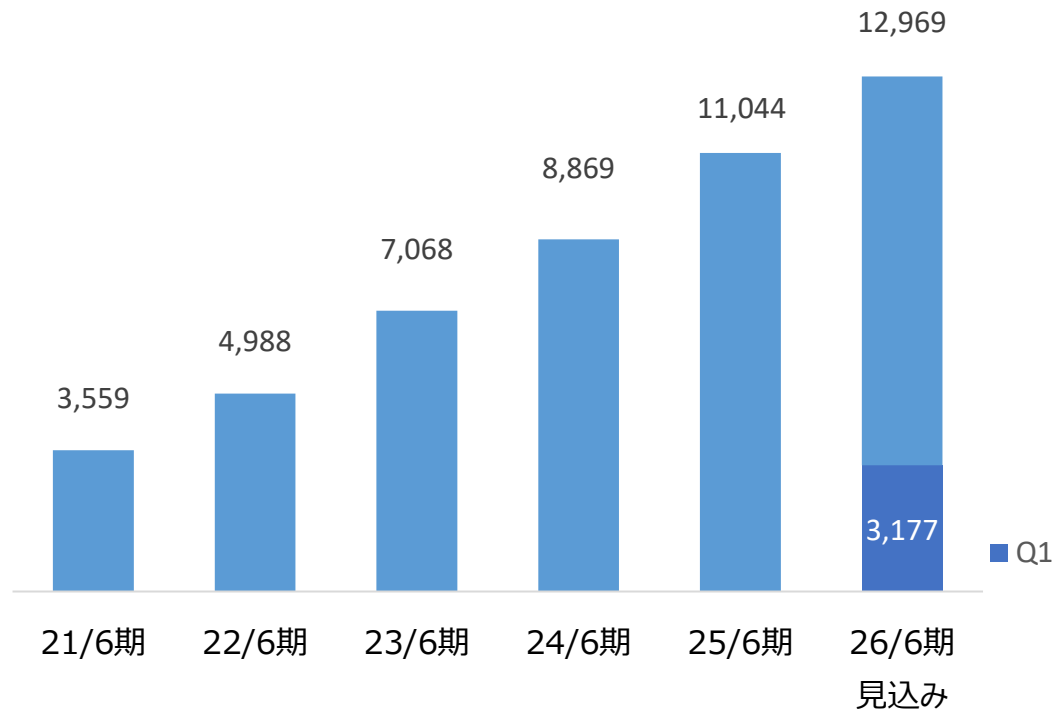
○下安家さけ・ますふ化場

下安家さけ・ますふ化場は、震災や豪雨災害後に、国、岩手県、野田村等の支援で復旧、最近は従来のさけ・ます放流事業に加え、当社グループとの協働によるサーモントラウト養殖にも進出

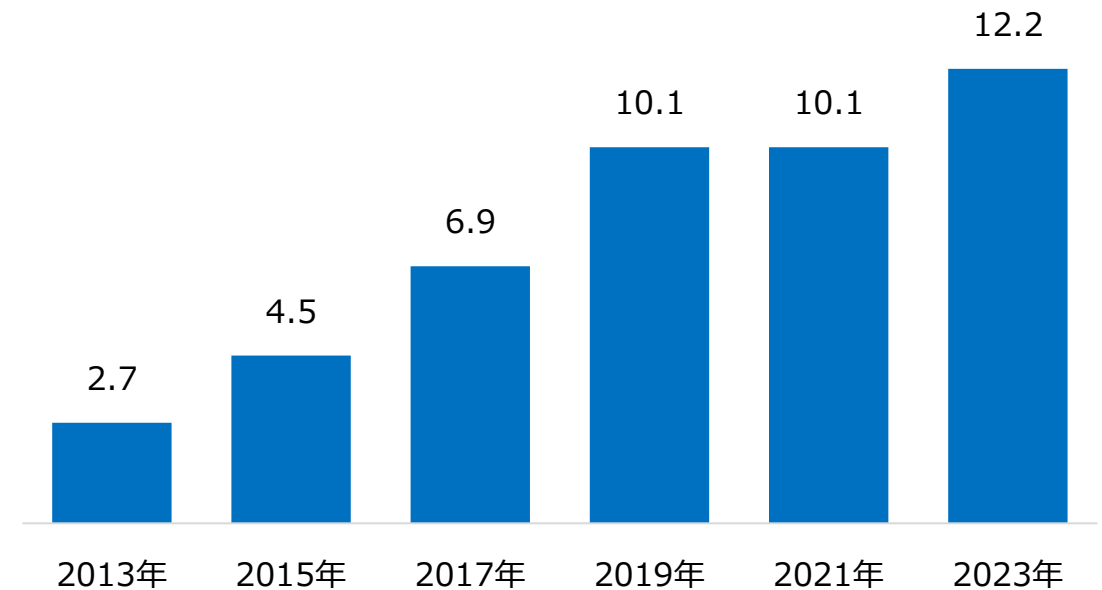
成長のためのKPI (2) 海外卸売事業売上の拡大

もう一つの成長ドライバーである海外卸売事業は、アジアにおける日本食市場の拡大を背景に順調に推移。当Q1時点での売上高は3,177百万円（前年同期比321百万円増、為替換算影響含む）となった。

海外卸売事業売上高（百万円）



アジアにおける日本食レストランの概数（万店）

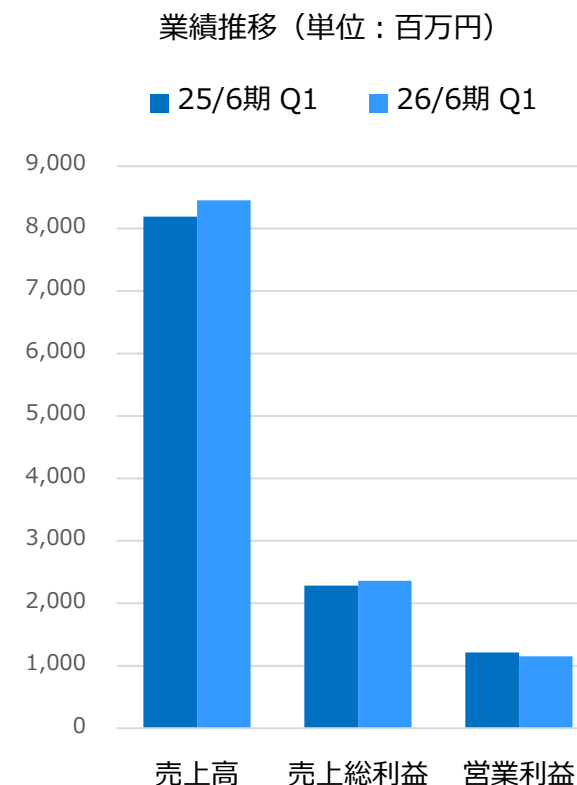


（出所）「海外における日本食レストランの概数（令和5年）」令和5年10月13日農林水産省
「海外における日本食レストランの数（令和3年）」令和3年9月30日農林水産省
「農林水産省における日本食・食文化の魅力発信による日本産品海外需要拡大事業の拡大の紹介」平成30年9月農林水産省
「日本食・食文化の海外普及について」平成25年6月農林水産省

連結業績サマリー①

売上高は前年同期比2.5億円増、営業利益は人員増に伴う人件費増、在庫増加に伴う保管料増加等の影響により前年同期比△0.6億円減と増収減益。経常利益は前年同期比0.9億円増。外貨建債権の為替換算損益が前期比で1.9億円プラスに作用した影響など（当期は差益0.8億円、前期は差損1.1億円）

(単位：百万円)	25/6期Q1 実績	26/6期Q1 実績	増減額	増減率 (%)
売上高	8,191	8,450	259	3.2%
売上総利益	2,283	2,361	77	3.4%
営業利益	1,215	1,149	△65	△ 5.4%
経常利益	1,155	1,246	91	7.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	927	864	△62	△ 6.7%

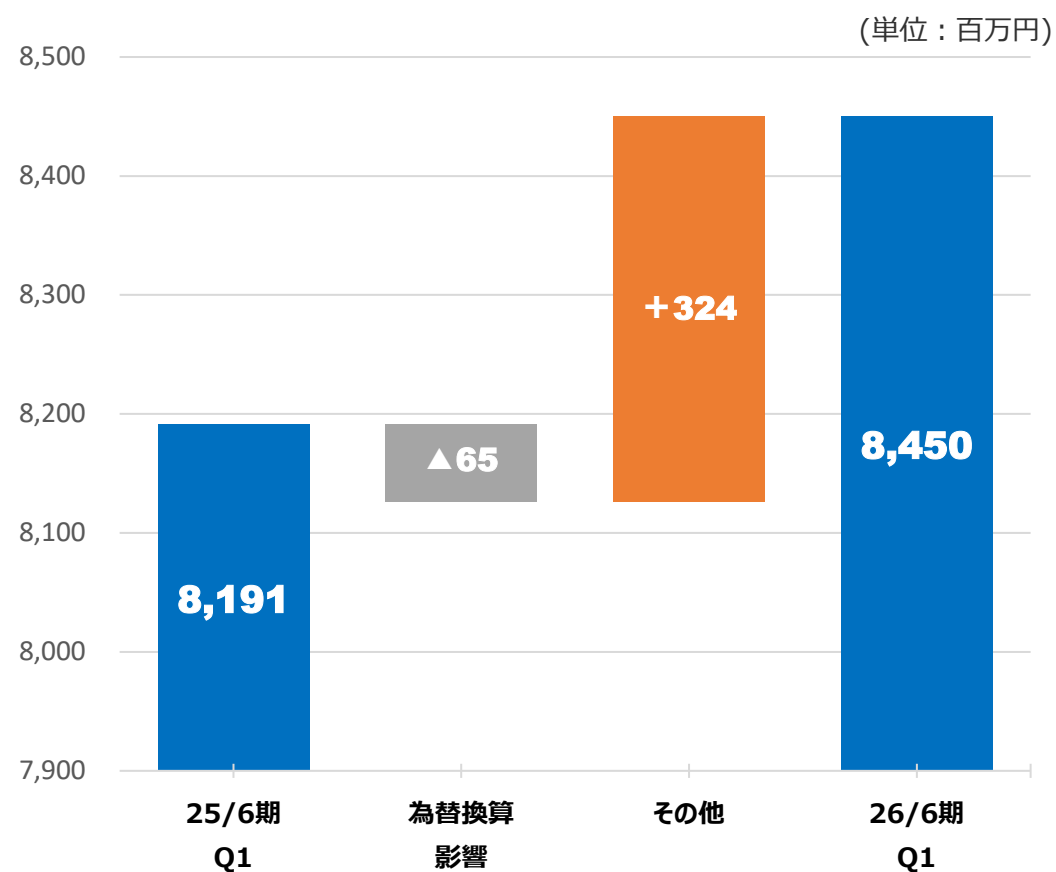


連結業績サマリー②

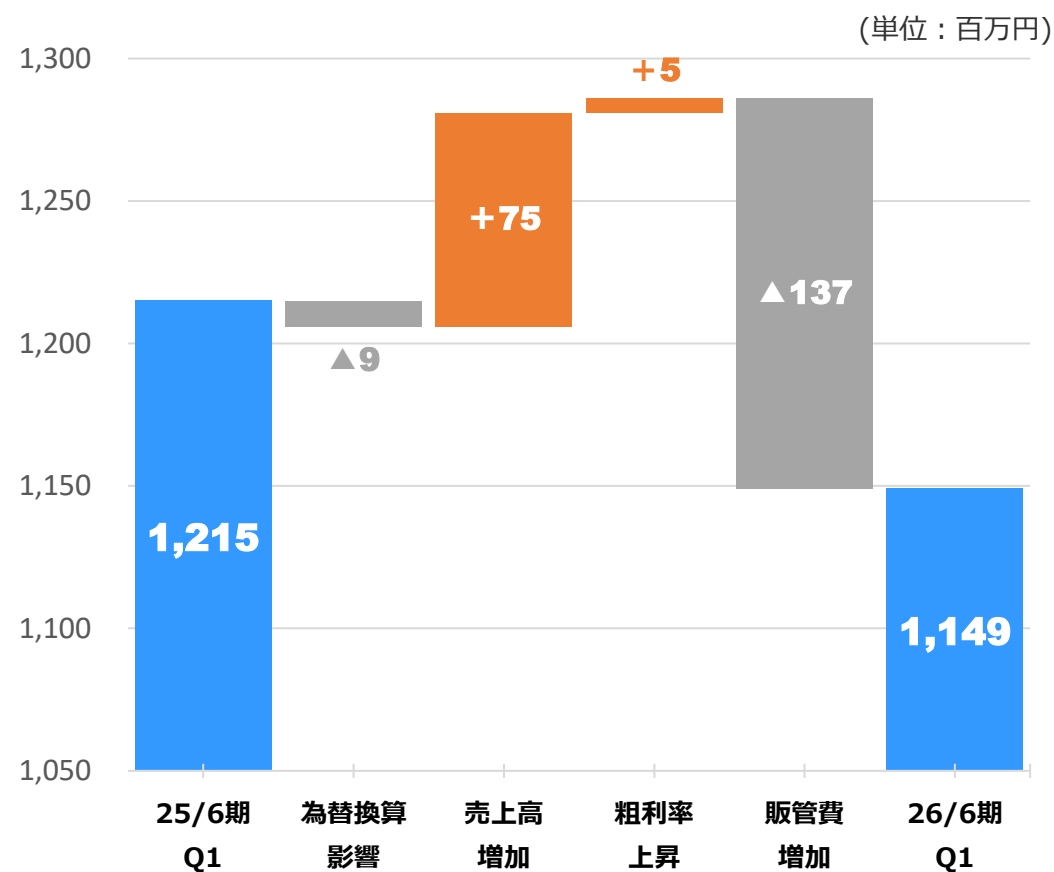
売上高は、為替換算影響を除いて3.2億円増加。

営業利益は、売上増による増益効果も、人員増に伴う人件費増等の販管費増加要因により、0.6億円減少。

連結売上高 増減要因



営業利益 増減要因



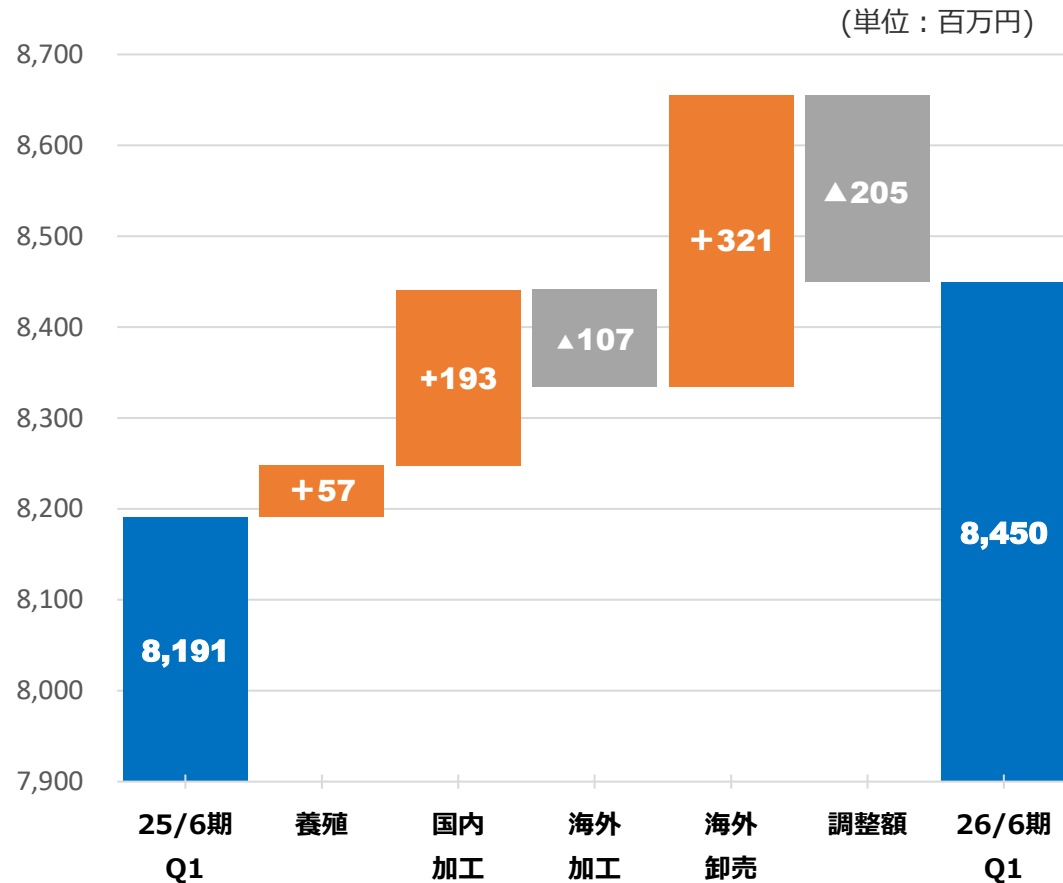
セグメント情報サマリー

(単位：百万円)

		25/6期Q1	26/6期Q1	前年同期比	前年同期比 増減率(%)	増減の内訳		
						為替差	実質	増減率(%)
売上高		8,191	8,450	259	3.2	△ 65	324	4.0
	養殖	1,302	1,359	57	4.4	△ 10	68	5.2
	国内加工	2,340	2,534	193	8.3	—	193	8.3
	海外加工	3,246	3,139	△ 107	△ 3.3	0	△ 107	△ 3.3
	海外卸売	2,855	3,177	321	11.3	△ 54	376	13.2
	調整額	△ 1,554	△ 1,760	△ 205	—	—	△ 205	—
セグメント利益		1,215	1,149	△ 65	△ 5.4	△ 9	△ 56	△ 4.7
	養殖	607	558	△ 49	△ 8.1	△ 8	△ 41	△ 6.8
	国内加工	345	465	119	34.7	—	119	34.7
	海外加工	274	144	△ 130	△ 47.5	2	△ 133	△ 48.5
	海外卸売	142	173	30	21.4	△ 3	34	24.2
	調整額	△ 154	△ 190	△ 36	—	—	△ 36	—

セグメント別売上高増減

セグメント別売上高増減



増減補足説明

養殖

前期比+57

- 国内養殖では販売単価が上昇。
- 海外養殖では前期からの繰越在庫の販売が堅調に推移。

国内加工

前期比+193

- 製品価格上昇に伴う値上げの実施と、他社との比較で一定の在庫を確保していたことによる販売数量増に伴う売上増

海外加工

前期比△107

- 原料価格上昇に伴う値上げを実施し販売数量減、新規魚種の開発・営業活動を進めるも挽回できず売上減。

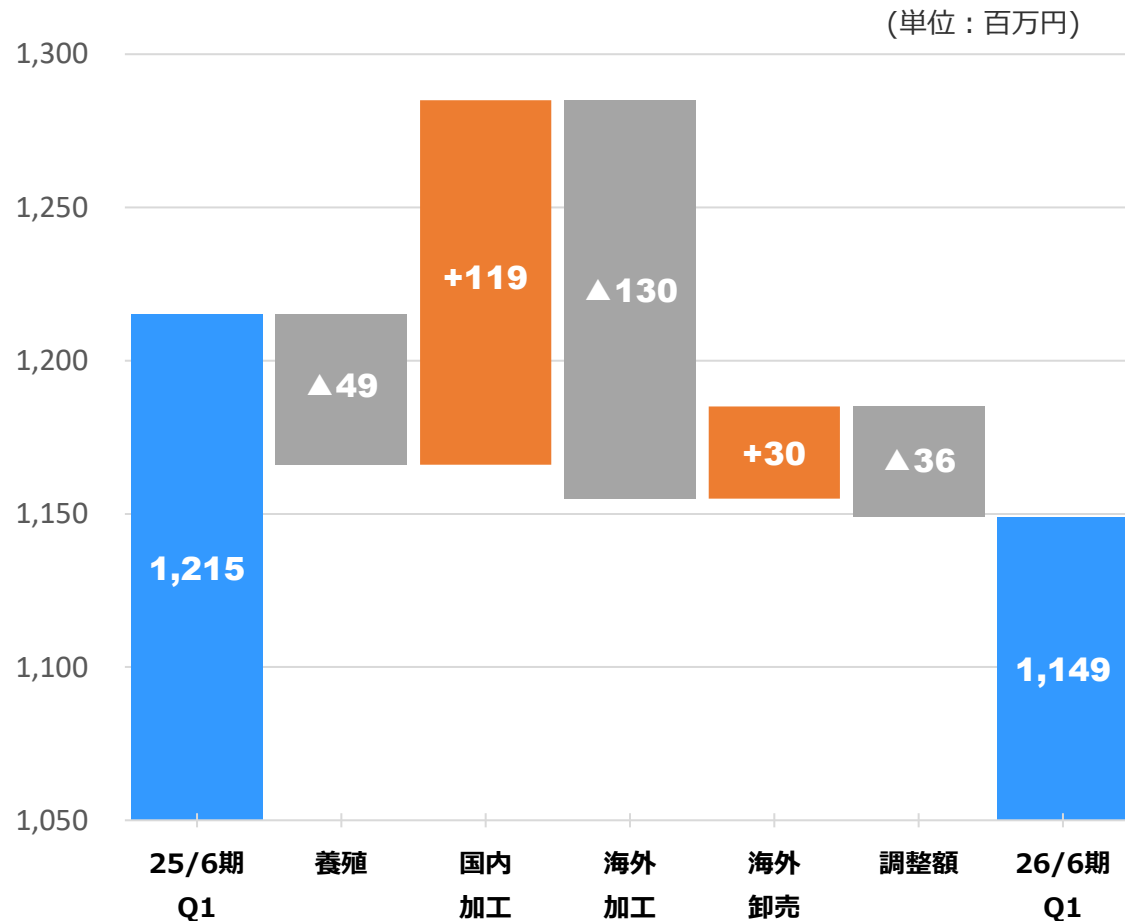
海外卸売

前期比+321

- 引き続き日本食レストランの出店増が継続するなど市場環境は良好。従来の売上増加傾向が継続。

セグメント別営業利益増減

セグメント別営業利益増減



増減補足説明

養殖

前期比△49

- 国内養殖は水揚げ量増加と販売単価上昇が増益に寄与。
- 海外養殖は工場生産調整や人件費増等により減益。

国内加工

前期比+119

- 売上増及びすじこと比較して粗利率の高いいくら商材の販売割合増加による粗利増加の影響。

海外加工

前期比△130

- 売上減と原料価格上昇による粗利率低下及び人件費等販管費増加の影響

海外卸売

前期比+30

- 売上増の影響に加え、タイ子会社の利益改善等により利益増加。

調整額

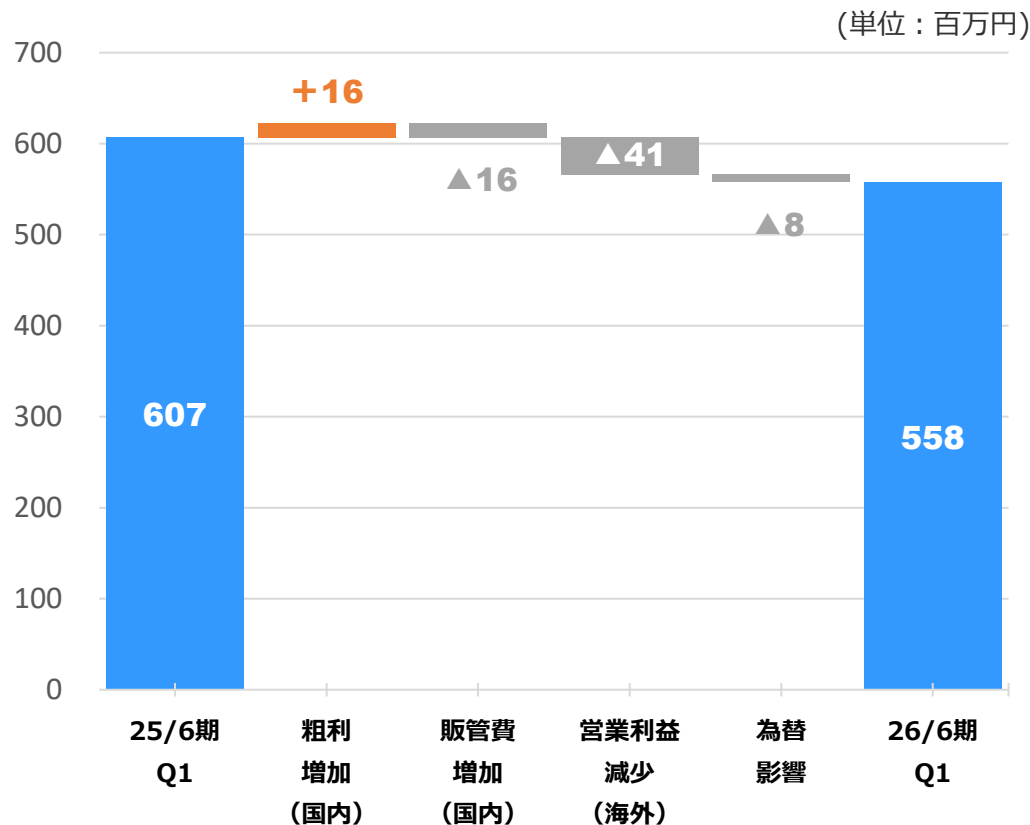
前期比△36

- 主に連結上の在庫未実現損益の増減。

要因別セグメント利益増減（養殖事業）

国内養殖の規模拡大に伴うコストメリット、販売単価増加も、海外養殖においていくら加工の生産調整による一時的な原価増及び人件費等の増加の影響を受け、全体としてはセグメント利益微減。

セグメント利益増減



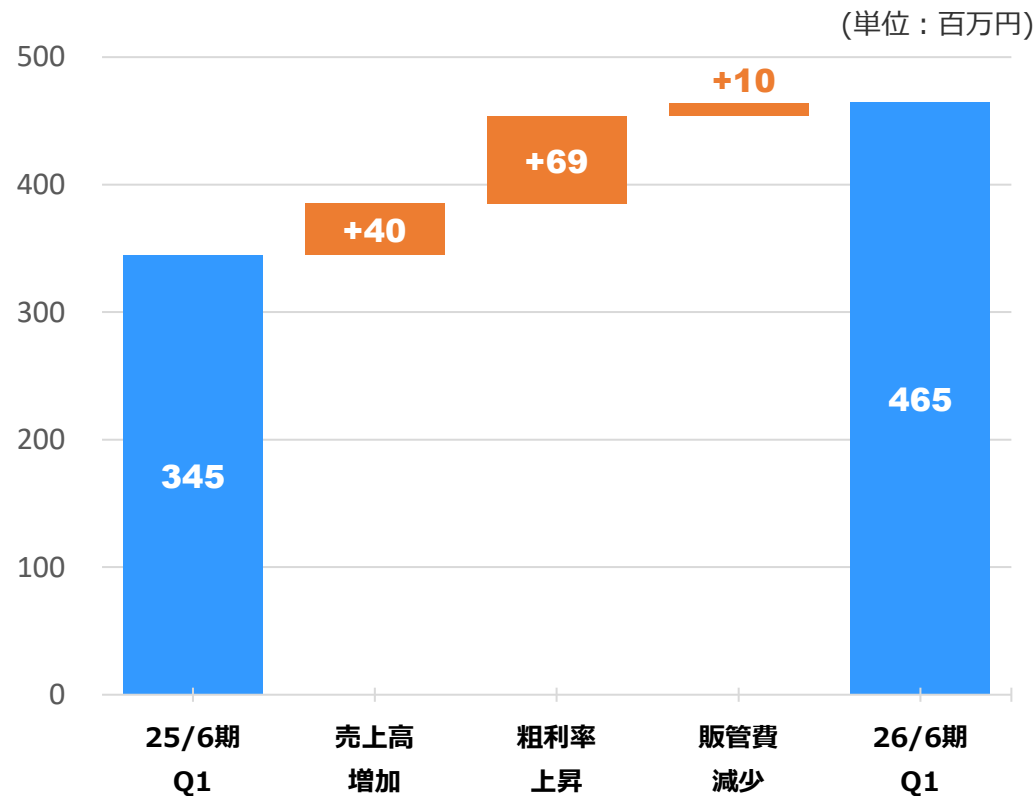
増減補足説明

- 粗利増加（国内）による影響** 前期比+16
 - 前年同期比較において、販売単価が上昇したことや、養殖規模拡大のコストメリットにより製造原価単価が低下したことによる。
- 販管費増加（国内）による影響** 前期比△16
 - 事業規模拡大に伴う増加（保管料、販売手数料、管理費等）。
- 営業利益減少（海外）による影響** 前期比△41
 - いくら加工の生産調整による一時的な原価増及び人件費等の増加の影響。

要因別セグメント利益増減（国内加工事業）

北海道の秋鮭不漁等の影響による国内原料不足により、販売価格相場上昇、一定の在庫を保有する当社製品の売上は順調に推移し、契約更新による単価見直しやいくら製品の販売割合が増えたことでセグメント利益増

セグメント利益増減



増減補足説明

売上高増加による影響

前期比+40

- 契約更新による価格見直しが順次進み、他社との比較で一定の在庫を確保していた当社のいくらの販売が伸びて売上増加

粗利率上昇による影響

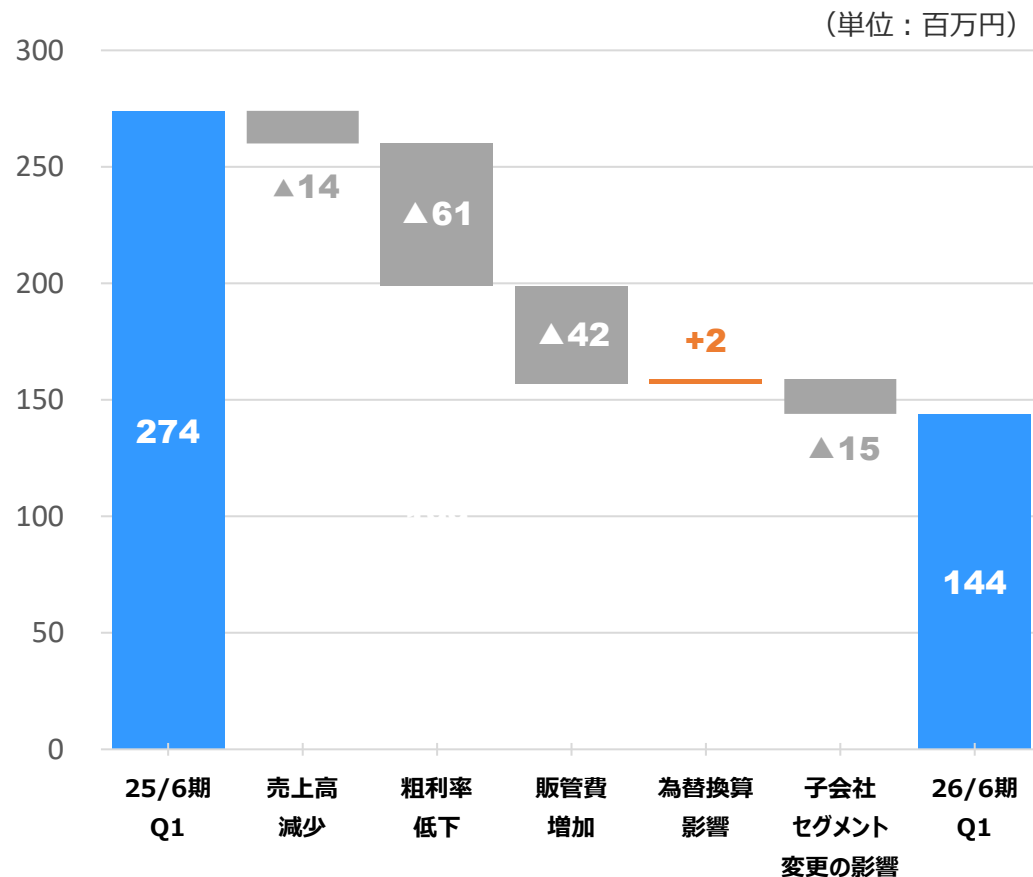
前期比+69

- 契約単価見直しや販売量増加による売上増と、すじこ製品と比較して粗利の高いいくら製品の販売割合が増えたことによる粗利率改善

要因別セグメント利益増減（海外加工事業）

サーモンハラス原料の不足は継続、為替や仕入相場の影響を受け、ハラス含めた原料価格上昇に対して価格転嫁が追いつかず粗利率低下、従業員数増加等によりセグメント利益減

セグメント利益増減



増減補足説明

売上高減少による影響

前期比△14

- ハラス等の原料価格上昇に伴う値上げの実施も販売数量減、新規魚種の開発・営業活動を進めるも売上減

粗利率低下による影響

前期比△61

- ハラス等の原料価格上昇により値上げも価格転嫁が追いつかず粗利率低下。

販管費増加による影響

前期比△42

- 事業拡大に伴う従業員数の増加による人件費増加等の影響

セグメント変更の影響

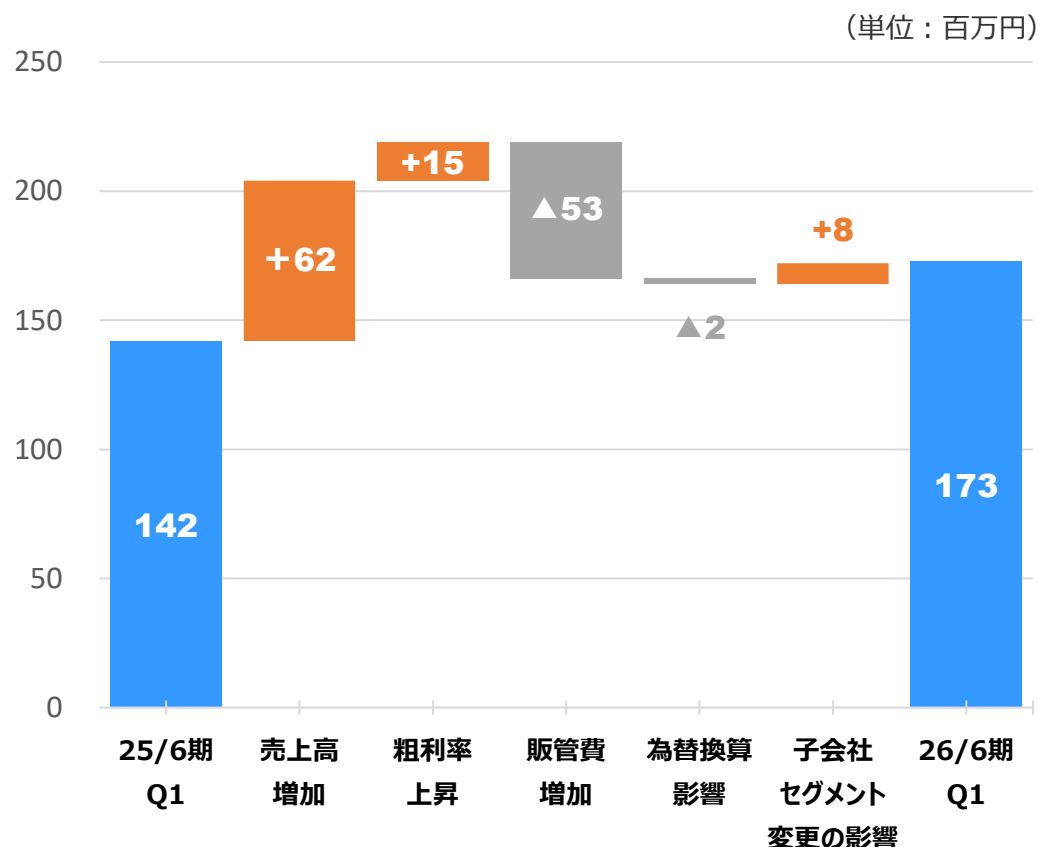
前期比△15

- ベトナム子会社の海外卸売事業開始に伴うセグメント変更の影響（年間では約△50）を想定

要因別セグメント利益増減（海外卸売事業）

市場拡大を背景にこれまでの増収トレンドが継続、売上高増が販管費増を吸収、セグメント利益増。

セグメント利益増減



増減補足説明

売上高増加による影響

前期比+62

- アジアの日本食マーケットの拡大傾向は継続しており、これを背景に当事業の売上高も増加。利益額を押し上げる要因となっている。

粗利率上昇による影響

前期比+15

- タイ子会社の事業拡大に伴う利益改善により粗利率は上昇。

販管費増加による影響

前期比△53

- 事業拡大による費用増加。販管費投資が一巡したことで、当期の販管費率は正常化。

連結貸借対照表 増減サマリー

(単位：百万円)

資 産	2025年6月末	2025年9月末	増減
流動資産	30,327	44,711	14,384
現金及び預金	4,416	6,725	2,309
売上債権等	4,599	3,535	△ 1,064
棚卸資産	17,378	29,938	12,560
その他	3,933	4,512	579
固定資産	10,944	11,509	565
有形固定資産	10,104	10,638	534
無形固定資産	259	315	56
投資その他の資産	580	556	△ 24
資産合計	41,271	56,221	14,950

負 債	2025年6月末	2025年9月末	増減
流動負債	20,036	34,186	14,150
仕入債務	1,823	5,211	3,388
借入金	12,651	23,538	10,887
その他	5,562	5,436	△ 126
固定負債	5,191	4,817	△ 374
借入金	3,388	2,748	△ 640
その他	1,803	2,069	266
負債合計	25,228	39,003	13,775
純 資 産			
純資産合計	16,043	17,217	1,174

- 棚卸資産、仕入債務の増加：原料の豊漁年に対応した国内加工事業における魚卵仕入と養殖事業の仕掛（養殖中のサーモントラウト）在庫の増加など
- 設備投資の進捗：主に養殖事業に関する設備投資
- 借入金の増加：国内加工事業向けの原料仕入のために借入増加（運転資金目的）

Ⅱ. 「中期経営目標2030」の進捗状況



- 国内養殖キャパシティの拡大に向けた取組
 - ① 中間養殖場の建設状況と自治体との協議の状況
 - ② バージ船の新設
 - ③ 国内養殖生産量増加を見据えた冷凍庫の確保

- 海外卸売事業の拡大に向けた取組
 - 新たな海外卸売事業の拠点として香港に進出

国内養殖量の拡大に向けた取組 ①中間養殖場の建設状況と自治体との協議の状況

- 中期経営目標2030の達成に向けて、中間養殖場建設が順調に推移、第2今別中間養殖場においては、井水第一号掘削中であり、掘削完了後、設備設計へと進む予定。現状では順調に経過。
- 青森県および北海道南エリアでの中間養殖場新設に向け、自治体との協議は継続して進行中。

現在進行中の中間養殖場新設状況

	泊川中間養殖場 (秋田県八峰町)	第2今別中間養殖場 (青森県今別町)
想定成魚 生産量 (ト)	約1千ト	約1千ト
現状	建設工事中 (2025年6月撮影) 	井水第一号掘削中 ← New!! (2025年5月撮影) 
水揚げ寄与 見込	2027年6月期 (変更なし)	(遅くとも) 2028年6月期 (変更なし)

左記のほか、青森県および北海道南エリアでの中間養殖場新設を想定し、候補地選定作業（自治体との協議、地質調査、ボーリング調査等を含む）が複数箇所で行進中



国内養殖量の拡大に向けた取組 ②バージ船の新設

- ・ 中期経営目標2030の達成に向けて、さらなる給餌効率の安定化を目指しバージ船の新設を決定。
- ・ 新設するバージ船は、三厩海域のためもの。今まで環境が厳しいため使われていなかった漁場を開拓し、将来的な生産量拡大を見据えて大型化。

導入済・新規バージ船の比較

	導入済バージ船	新規バージ船
導入地区	今別海域	三厩海域
餌積載量	240トン	300トン
新設バージ船特徴	-	・ 既存のバージ船のノウハウを利用し、塩害対策や電子設備の機密性を強化 ・ 餌保管サイロ数を増設するとともに、サイロから供給可能な生簀のチャンネル数を増加 ・ 将来的な海面養殖場の拡張性を考慮し、既存バージ船の餌積載量240トンから300トンへ大型化
水揚げ寄与見込	稼働中	2027年6月期（予定）

【参考：バージ船イメージ】



※実際の新設バージ船とは異なります。



国内養殖量の拡大に向けた取組 ③国内養殖生産量増加を見据えた冷凍保管庫の確保

- ・ 中期経営目標2030の達成に向けて、国内養殖生産量増加に伴う冷凍保管庫の確保のため、(株)共同物流サービスと提携し、青森県八戸市に新設される冷凍保管庫の利用を計画
- ・ 冷凍保管庫に近い八戸港を国内外への物流拠点とし、物流の「モーダルシフト※1」を推進
- ・ 青森全域でのサーモン事業を通じ、地域社会へ産業貢献

(株)共同物流サービスとの提携効果

保管量	中期経営目標である12,000トンの生産に向けセミ超低温（SF1 ※2）冷凍保管能力の確保
環境配慮	八戸港を国内外への物流拠点とすることで、陸上貨物輸送を最小限に抑える
地域貢献	当社で養殖するサーモンの大部分を青森県内に集約し、その物流保管業務を青森県内で内製化。八戸港の活性化も図る

養殖サーモンの物流図



【参考：(株)共同物流サービス新設冷凍保管庫イメージ】



※1 トラック等の自動車で行われている貨物輸送を環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へと転換すること

※2 -35℃～-40℃の温度帯を「セミ超低温（SF1）」として位置け。一般的な冷凍食品よりも厳しい温度管理が必要な食品の保管温度帯。

新たな海外卸売事業の拠点として香港に進出

- 海外卸売事業としてはベトナムに続き6ヶ国目の進出となり、世界9ヶ国でグループ展開を果たす
- 中華人民共和国への進出の足掛かりとなることに期待

デンマーク

Musholm Loejstrup Dambrug



東京

オカムラ食品工業東京本社

青森

オカムラ食品工業青森本社

日本サーモンファーム



ミャンマー

Okamura Trading Myanmar



香港

OKAMURA TRADING(HONG KONG) COMPANY LIMITED

台湾

Okamura Trading Taiwan

ベトナム

Okamura Trading Vietnam

シンガポール

Okamura Trading Singapore



マレーシア

Xenka Trading (M)

タイ

Okamura Trading (Thailand)

連結子会社10社

- 日本サーモンファーム株式会社
- Musholm A/S
- Loejstrup Dambrug A/S
- Okamura Trading Myanmar Co., Ltd.
- Okamura Trading Vietnam CO., Ltd.
- Okamura Trading Singapore Pte., Ltd.
- Xenka Trading (M) Sdn. Bhd.
- Okamura Trading Taiwan Co., Ltd.
- Okamura Trading (Thailand) Co., Ltd.
- **OKAMURA TRADING(HONG KONG) COMPANY LIMITED**

- 養殖事業拠点
- 国内加工事業拠点
- 海外加工事業拠点
- 海外卸売事業拠点

Ⅲ . 2026年6月期 通期計画



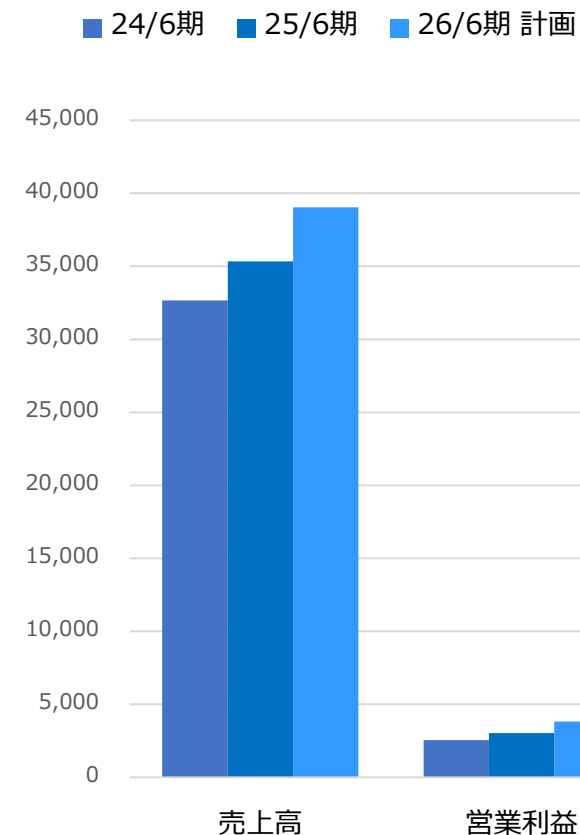
連結業績計画サマリー

- 連結売上高は前期比37億円増の390億円を計画。主な要因は、国内養殖量増による養殖事業売上増、アジアでの市場規模拡大を背景にした海外卸売事業売上及び海外加工事業売上増。
- 連結営業利益は前期比 8 億円増の38億円を計画。上記売上増に伴う増益。

(単位：百万円)

	24/6期 実績	25/6期 実績	26/6期 計画	増減額	増減率 (%)
売上高	32,665	35,345	39,035	3,689	10.4
営業利益	2,548	3,021	3,813	791	26.2
経常利益	2,932	2,815	3,594	779	27.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,968	2,020	2,577	556	27.5
1株当たり当期 純利益（円）	42.03	41.35	52.37	11.02	26.6

業績推移（単位：百万円）



- ※ 25/6期の経常利益には、為替差損222百万円（外貨建債権に関する為替差損など）が含まれています。
- ※ 2025年1月1日付で1：2の株式分割を、2025年7月1日付で1：3の株式分割を行っています。上記の1株当たり当期純利益は24/6期の期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合の金額を記載しています。

セグメント別

(単位：百万円)	2025/6期 実績 (a)	2026/6期 計画 (b)	(b-a)
売上高	35,345	39,035	3,689
養殖	9,260	9,941	681
国内加工	9,398	9,742	344
海外加工	14,087	16,415	2,328
海外卸売	11,044	12,969	1,925
調整額	△8,445	△ 10,034	△1,589
セグメント利益	3,021	3,813	791
養殖	1,238	1,273	34
国内加工	1,177	1,510	332
海外加工	1,040	1,256	216
海外卸売	603	762	158
調整額	△1,039	△ 989	49

増減説明（セグメント利益）

養殖

対実績+34

- ・ 当期比で国内養殖量は8百トン、海外養殖量は6百トンの増産見込。
- ・ 国内養殖では、戦略的に海外販売を増やしていくために期末在庫が大きく増えて、販売数量は水揚げ量ほどには増えない見込み。
- ・ 欧州市場の影響を強く受ける海外養殖の販売価格は参考指標に基づき設定。現状のサーモン価格の状況を反映して当期実績より低め。

国内加工

対実績+332

- ・ 25.6期は価格転嫁が遅れ、近年では最も低い利益率だった。
- ・ 今年の漁獲高は低水準となる見通し。魚卵原料不足から、利益率は平年並みにまで回復すると見込む。

海外加工

対実績+216

- ・ サーモンハラス原料の調達難は継続する前提としている。
- ・ 青森サーモンの加工販売や新アイテムの拡大により国内向け売上が増加見込み。
- ・ 海外卸売売上の伸びに伴い、同事業向けの販売も増加見込み。

海外卸売

対実績+158

- ・ アジアの日本食マーケットの拡大傾向は継続すると想定。当事業もこれまでと同様のペースで成長を続けると見込む。

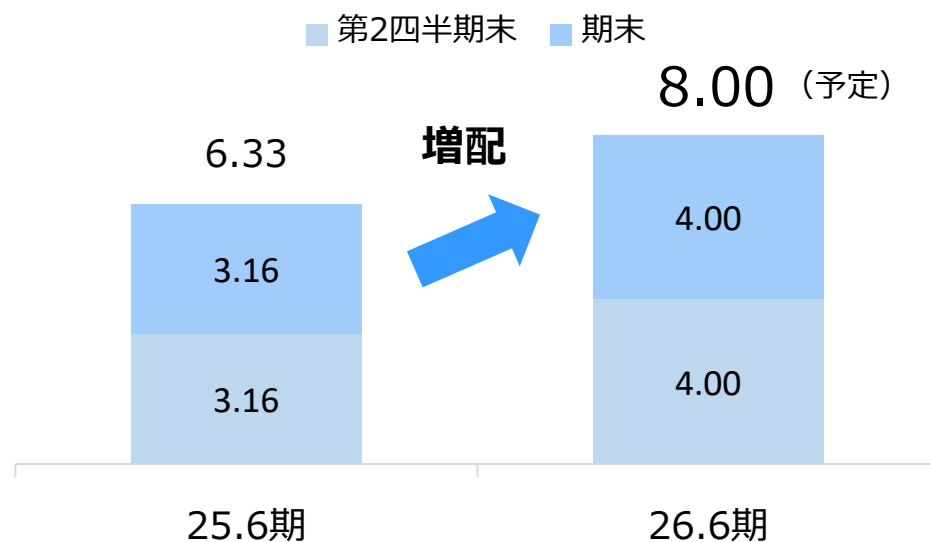
株主還元

配当

配当方針

株主資本配当率2%以上を目途に継続的な増配に努める

1株当たり配当金推移：（単位：円）



※25年1月1日付で1：2の株式分割を、25年7月1日付で1：3の株式分割を行っています。上記の1株当たり配当金額は25.6期の期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合の金額を記載しています。

株主優待制度

目的

当社製品・事業の知名度向上
当社株式の投資魅力の向上

対象者

期末時点で1单元（100株）以上保有の株主様

優待品の内容

当社で養殖あるいは加工した食品

100～299株

おおむね3,000円相当



300～599株

おおむね5,500円相当



600株以上

おおむね8,000円相当



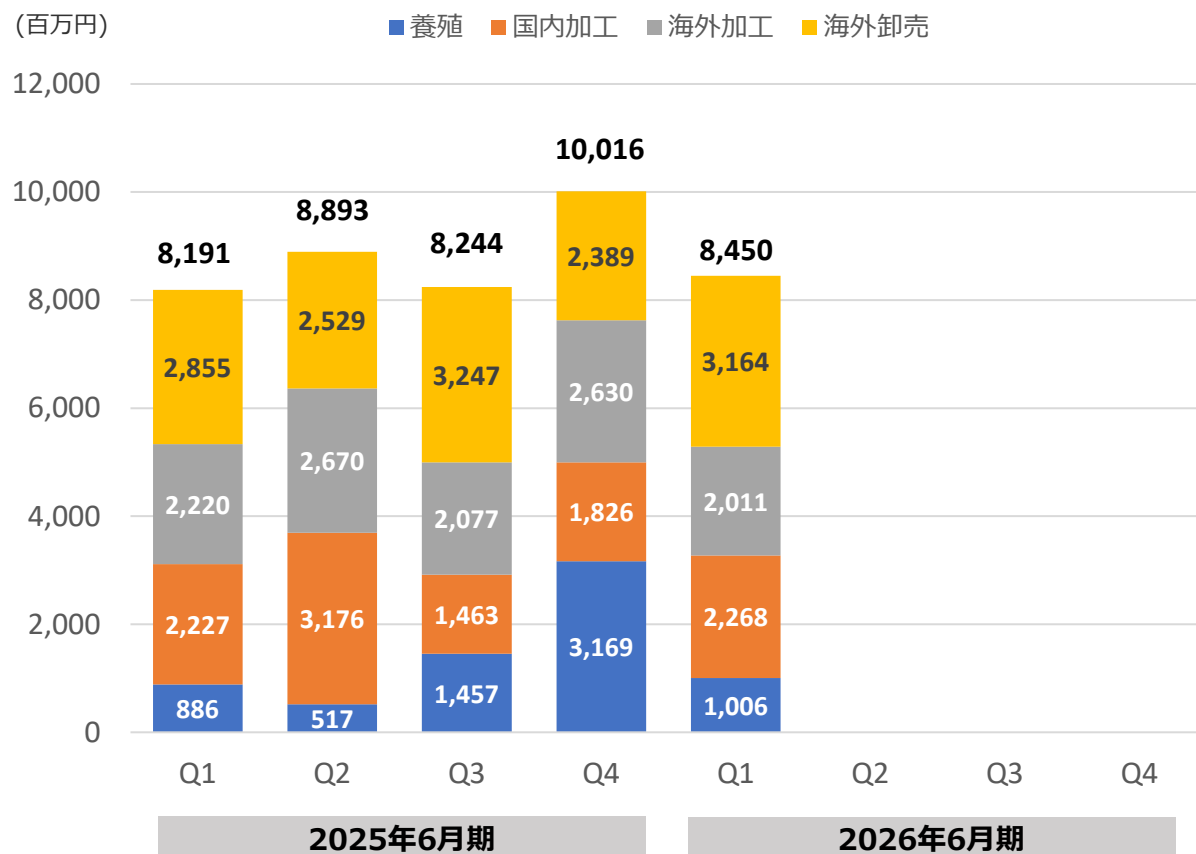
※上記の株式数は、2025年7月1日付の株式分割後の株式数を記載しています。
優待品の金額表記は、商品価格改訂後の金額に基づいて記載しています。

IV. 参考資料



四半期ごとの季節変動について（売上高）

□ セグメント別 四半期推移（外部顧客への売上高）



<各セグメントの主な季節要因>

○養殖事業

水揚げ時期に売上が集中する傾向があります。水揚げ時期は国内養殖が4～7月（主に第4四半期）、デンマークの養殖が10～12月（第3四半期・決算日差異あり）になります。

○国内加工事業

取扱っている製品（いくら、筋子、数の子）の性格上、年末商戦（第2四半期）に売上が集中、年始はその反動で売上が落ち込むという傾向があります。

○海外加工事業

特に大きな季節要因はありません。

○海外卸売事業

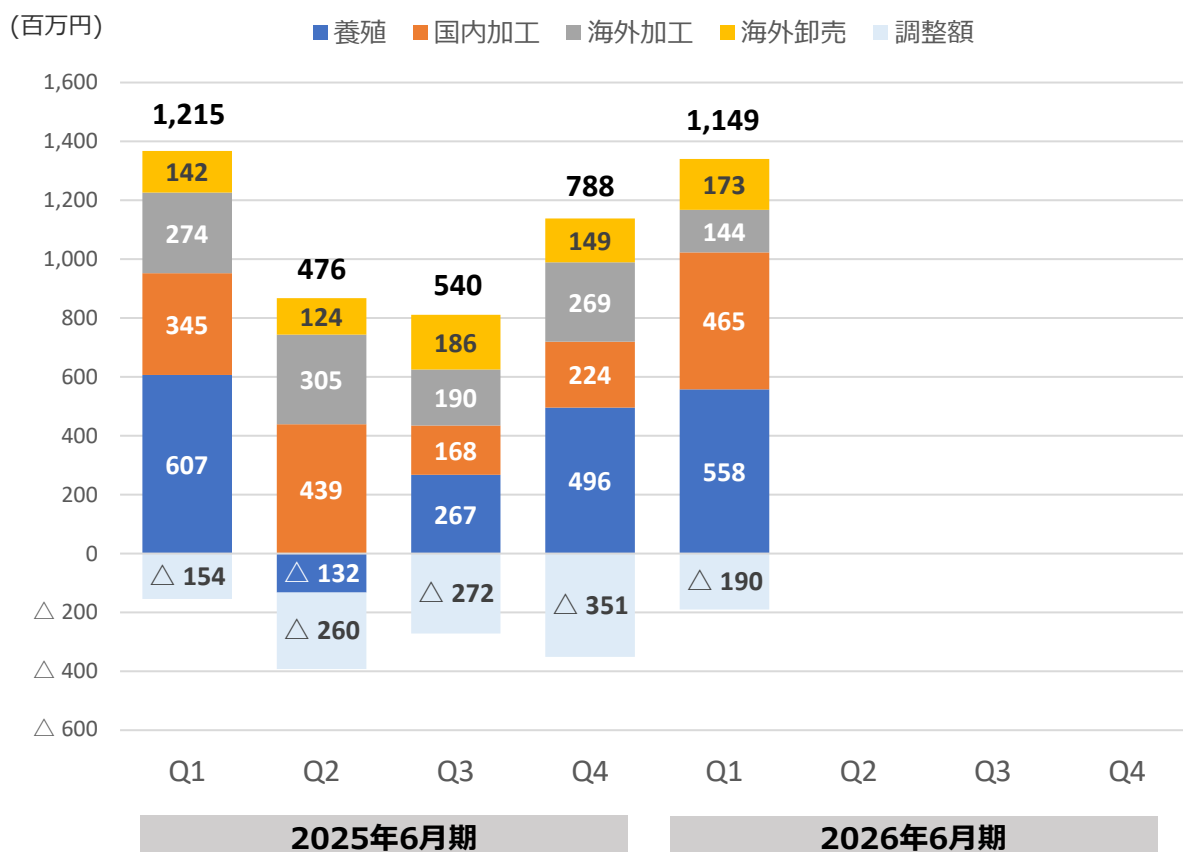
特に大きな季節要因はありません。

（注）

上記は例年における主な季節要因を説明したものです。実際の業績は他の様々な要因によって変動することをご承知おき下さい。

四半期ごとの季節変動について（セグメント利益）

□ セグメント別 四半期推移（セグメント利益）



<各セグメントの主な季節要因>

○養殖事業

Q1

国内・海外ともに水揚げ時期ではありませんが、デンマーク子会社（IFRS適用）の年間販売利益の見込額がQ1に一括で計上されます。

Q2

国内・海外ともに水揚げ時期ではないため、販売利益は少なくなる傾向があります。

Q3

デンマーク子会社の水揚げ時期にあたります。デンマーク子会社の販売利益の見積差額（実績値との差）はこの時期に多く計上される傾向があります。

Q4

国内養殖の水揚げ時期にあたります。国内養殖の販売利益はこの時期に多く計上される傾向があります。

○国内加工事業/海外加工事業/海外卸売事業

前頁参照

○調整額

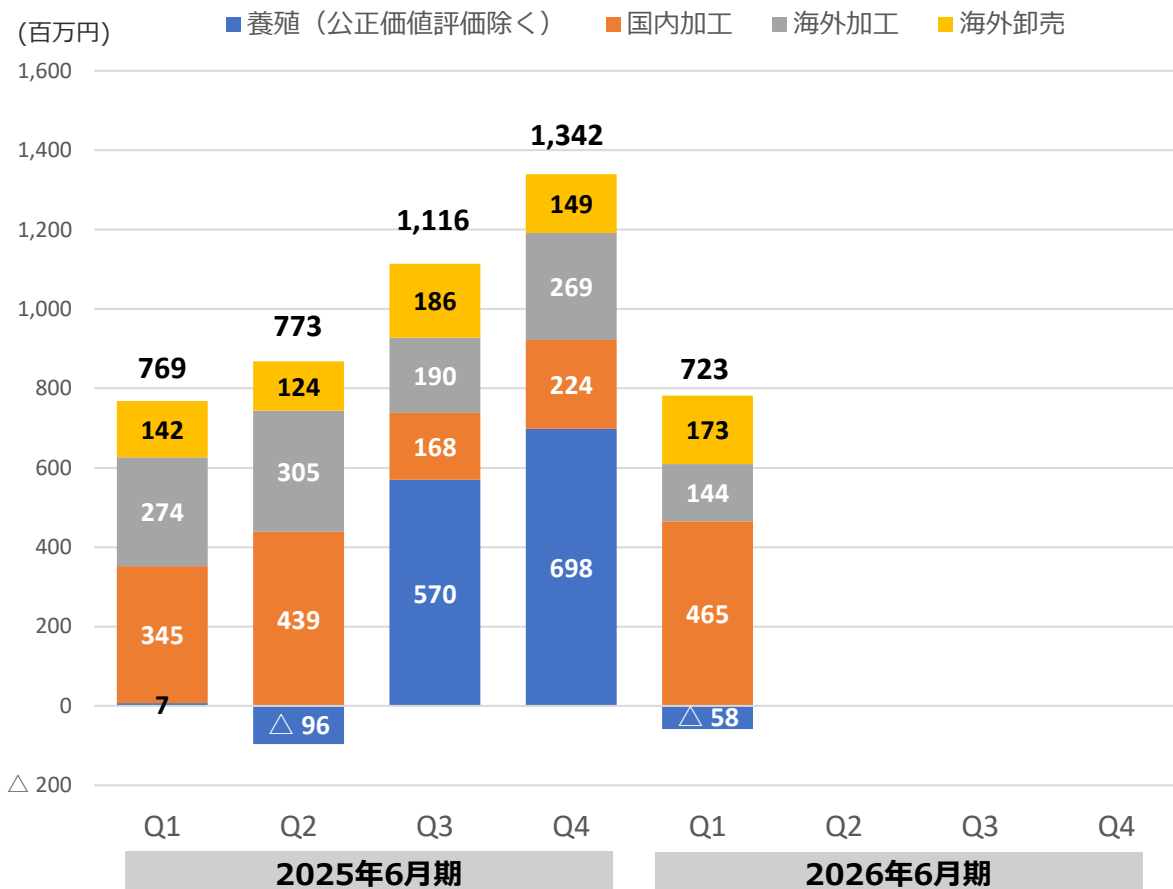
全社費用に加え、グループ内取引によって生じた棚卸資産未実現利益の控除を含みます。これはQ2に多く計上される傾向があります。

(注)

上記は例年における主な季節要因を説明したものです。実際の業績は他の様々な要因によって変動することをご承知おき下さい。

四半期ごとの季節変動について（IAS41号に基づく公正価値評価損益を除いた場合のイメージ）

ロ セグメント別 四半期推移（調整額控除前セグメント利益）

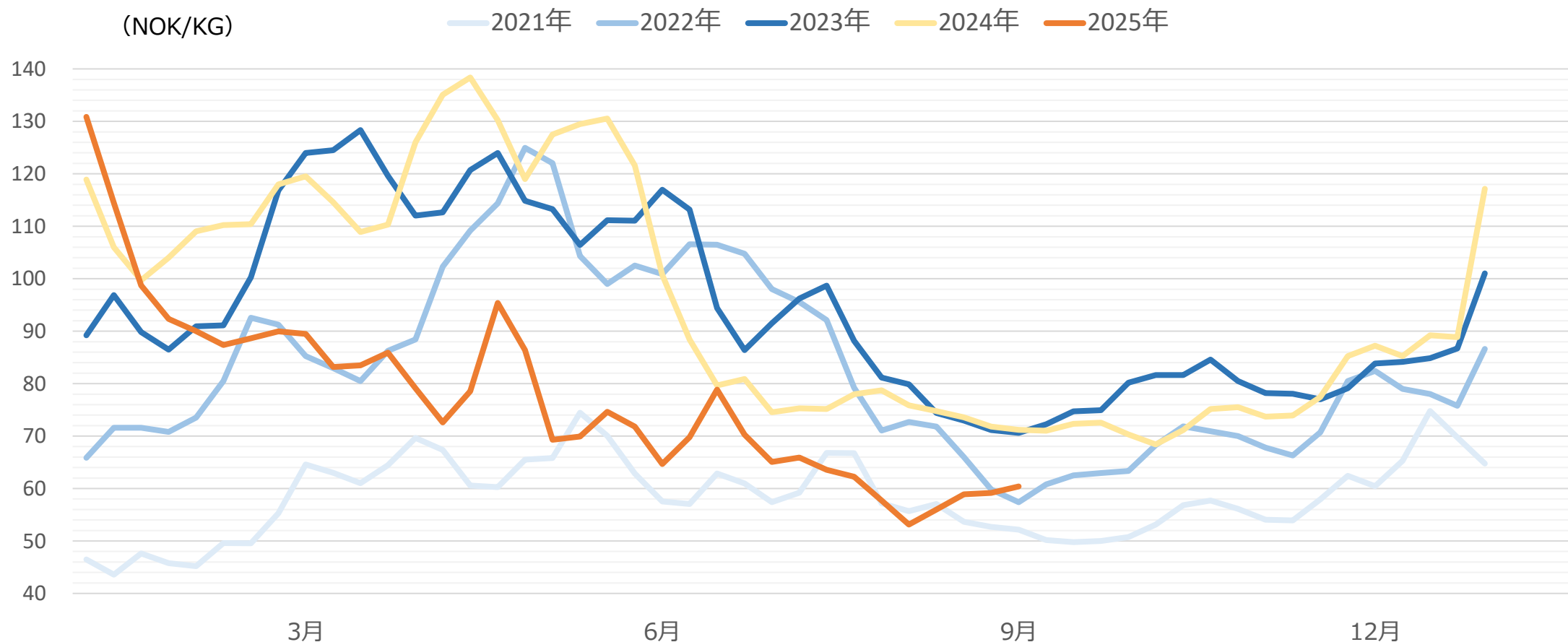


公正価値評価損益の影響を除いた季節変動（日本の会計基準で処理した場合に近似する）は左記のとおりです。

（注）

- セグメント利益の調整額（全社費用、棚卸資産に含まれる未実現利益の消去、など）を控除する前の数値です。

アトランティックサーモンのスポット価格 (Fish Pool Index)

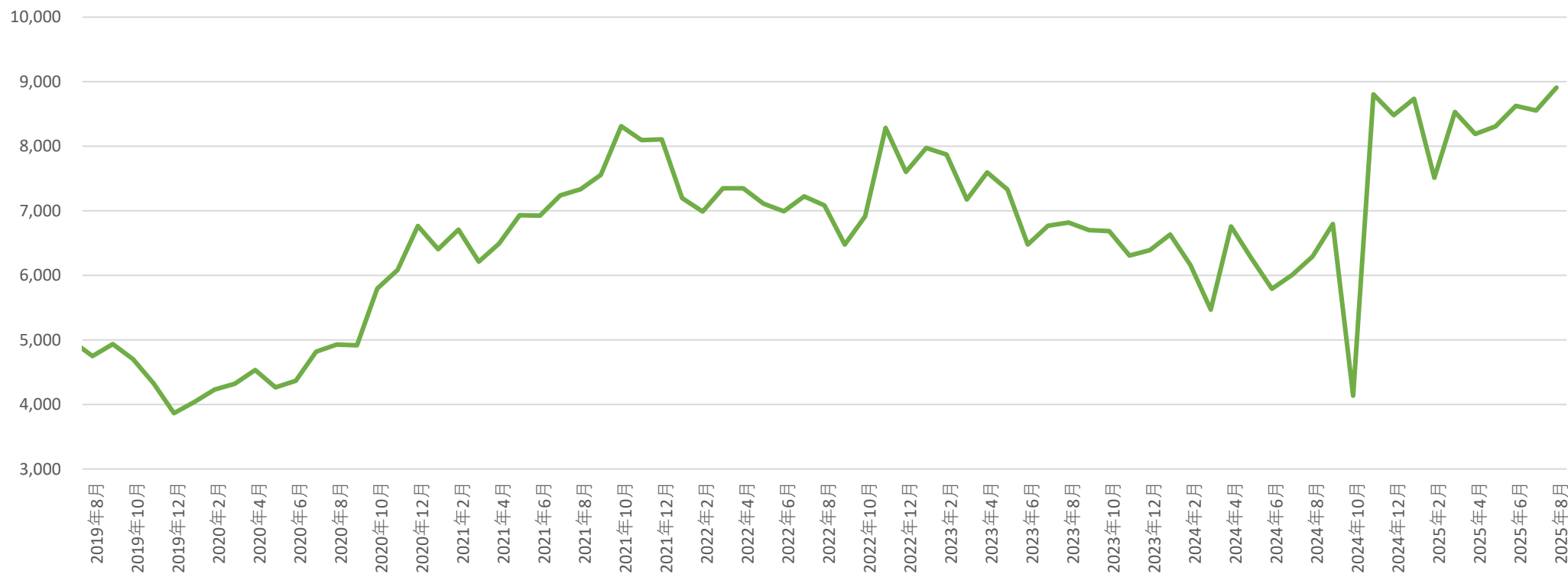


※ 上記グラフは、当社グループが養殖しているサーモントラウトとは異なる魚種であるアトランティックサーモンのスポット価格を表示しています。サーモントラウトにはこのような指標はないため、魚種は異なるものの、当社グループでは便宜的に当指標を予算策定や市場トレンドを測る際の参考指標として利用しています。なお、実際の取引価格は国内需給や輸送コストなど様々な要因に基づいて決定されます。あくまで当指標は一参考指標としてご覧いただく必要がある点にご留意ください。

豊洲市場のいくら平均価格推移

(円/Kg)

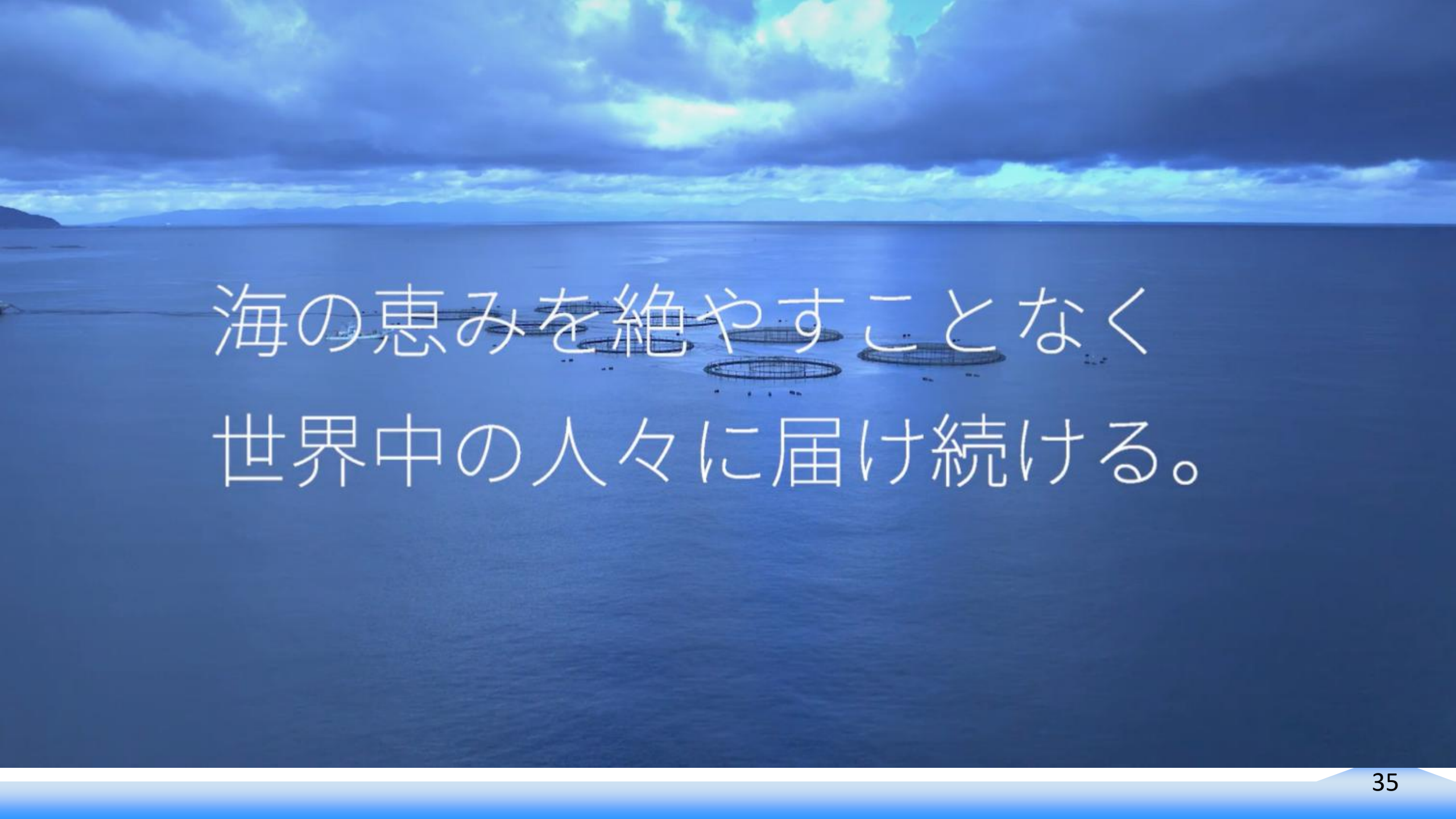
豊洲市場のいくら平均価格



出展) 東京都中央卸売市場・市場統計情報

※ 相場のトレンドを概観する目的で掲載しています。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、経済動向、他社との競争状況、商品相場動向など潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などの様々な要因により、実際の業績は言及又は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。



海の恵みを絶やすことなく
世界中の人々に届け続ける。

株式会社 **オカムラ食品工業**



青森サーモン®